

社会 第4学年 わたしたちの県のまちづくり 検討会の想定問答

指摘 1：本時で何を見取るのか。

返し：「地域の自然や土地の特色を生かすため、人々はどのように協力しているだろうか」について、人々の働きや資料同士の関係に着目し、根拠を挙げて説明している。結論だけではなく、どの事実を選び、なぜその事実で説明できると考えたかを見る。(5)の学習を具体的な記録で確かめる。

指摘 2：活動だけで終わらないか。

返し：地域の位置・地形の地図と、自然を利用する産業や観光の資料を比べる。資源を使う取組と守る取組を対にし、住民・事業者・行政の役割を整理する。利用を増やす場合に必要な条件を資料から考える。活動後に中心の問いへ戻り、事実と説明を線でつなぐ。(5)で求める理解と表現をそこで確かめる。

指摘 3：予想と違う結果が出た場合はどうするか。

返し：自然がよいから観光が盛んという説明には交通、案内、保全など人々の働きを加える。保護と利用を単純な賛否にせず両立の工夫を調べる 予想に合わせて結果を書き換えず、条件や資料の読み方を再確認する。(5)に関わる考えを見直す学習として扱う。

指摘 4：説明や記述が難しい子にはどうするか。

返し：比較する記録を並べ、対象・条件・時期を指差して話せるようにする。住民・行政・産業の協力を関係付ける活動では、教師が比較の視点を示してから児童の言葉で説明を聞く。代筆や図の使用は認めるが、考えそのものを教師が決めない。

指摘 5：安全や個人への配慮は何か。

返し：保護地域の生物や地形に触れない。観光案内の表現をそのまま事実評価にせず公的資料で確かめる 実施前の点検ができない活動は共通の記録資料に替え、(5)の問いを考える機会を確保する。

指摘 6：資料やICTはどのように使うか。

返し：地域の位置・地形の地図と、自然を利用する産業や観光の資料を比べる。資源を使う取組と守る取組を対にし、住民・事業者・行政の役割を整理する。利用を増やす場合に必要な条件を資料から考える。画面は拡大や並列表示に使い、端末がなくても印刷した同じ記録で比較できるようにする。ICTの操作の速さは評価しない。

指摘 7：時数の根拠と削る場合の考え方は。

返し：全6時間は教育出版の年間指導計画による。各次の配分は本案の提案である。削る場合も「地域の自然や土地の特色を生かすため、人々はどのように協力しているだろうか」を追究する記録と説明の時間を残し、同じ資料を読む重複や清書の方法を見直す。安全確認や実物を確かめる過程は省かない。

指摘 8：振り返りと次の指導をどうつなぐか。

返し：「地域の自然や土地の特色を生かすため、人々はどのように協力しているだろうか」について最初の考え、根拠にした記録、まだ残る疑問を読み比べる。地域の特色を根拠とともに説明する活動で根拠が不足した児童には、その記録を次時の導入に戻して確認する。態度は感想の長さではなく、調べ方や説明を見直す行動を継続して見る。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

